

1-1. 庁内における横断的連絡体制

環境部局

事例5. 神奈川県川崎市(1)

- **環境局**を事務局として、令和5年度から新たに「**気候変動適応法改正に伴う熱中症対策検討WG**」を立ち上げ、関係部局と連携して気候変動適応法の改正に伴う熱中症対策について検討を行う。

川崎市環境行政・温暖化対策推進会議(各局局長級)

川崎市環境行政・温暖化対策推進会議幹事会(各局企画課長)

気候変動適応法改正に伴う熱中症対策検討WG(課長級)

総務企画局(企画調整課、公共施設総合調整室、行政改革マネジメント推進室)

市民文化局(区政推進課)

環境局(企画課、脱炭素戦略推進室、◎ 環境総合研究所)

健康福祉局(企画課、健康増進担当)

危機管理本部(危機管理部)

消防局(救急課)

教育委員会事務局(教育政策室)

◎ : 事務局

※制度の詳細が明らかになった時点で必要な部署を適宜追加

■工夫した点

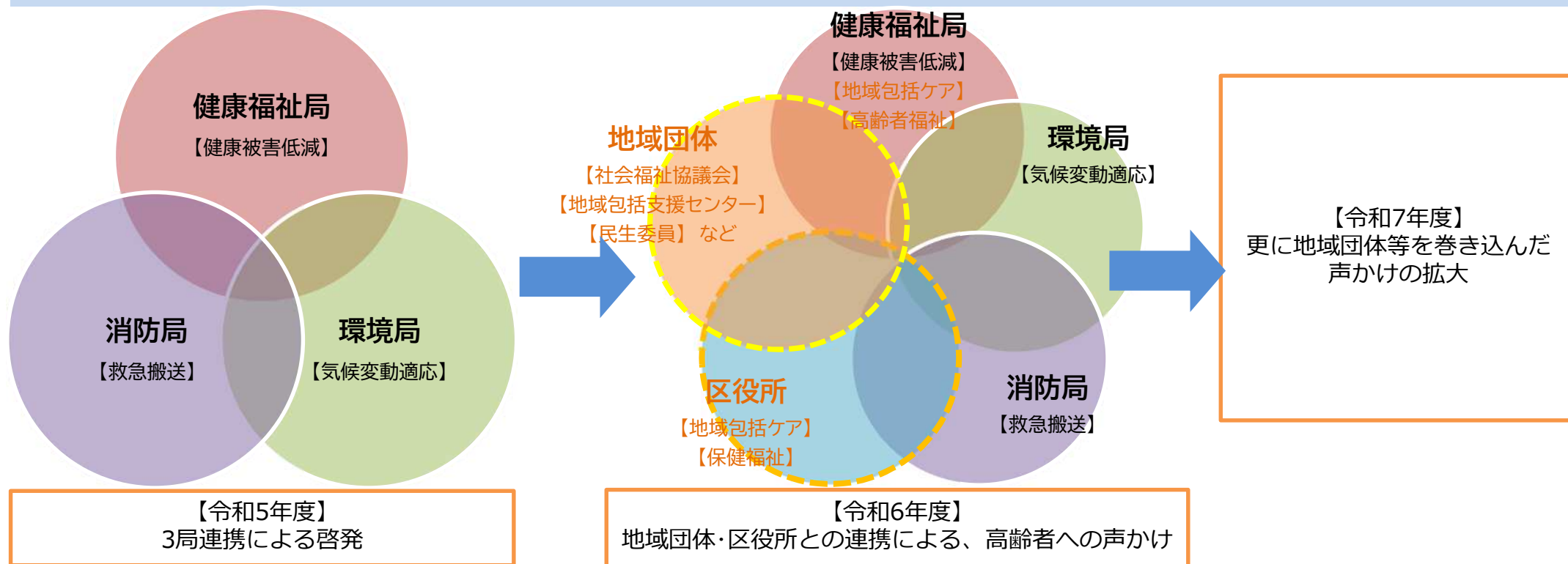
令和5年度当初は、改正法の詳細がわからない部分が多かったことから、WG構成員は最小限の関係課としたが、法改正に伴う取組を進めていく中で、総務企画局及び市民文化局の協力が必要となったことから、令和6年1月にこれらの部局を構成員に追加した。

1-1. 庁内における横断的連絡体制

環境部局

事例5. 神奈川県川崎市(2) 地域一体型の熱中症対策の推進

- 熱中症による救急搬送者の搬送を占める高齢者への熱中症対策が急務であり、地域の声かけによる啓発を展開するため、①令和5年度以前は川崎市3局(環境局、健康福祉局、消防局)連携体制を構築し、②令和6年度は健康福祉局 地域包括ケア推進室や高齢者在宅サービス課等との協力・連携体制の構築を行った。
- 令和7年度では、NPO、ボランティア団体や民生委員・児童委員協議会等との更なる協力・連携体制を拡充していく予定である。



■ 苦労した点

- ・ 高齢者を対象とする施設や活動、地域で活動する団体・ひと(点)とのつながりを線をつないでいく作業
- ・ 地域に存在する多数の点を把握することから始まり、会合などに向いて、関係づくりをすることにより線で結ぶことに大変苦労した。

■ 工夫した点

- ・ まずは、既存の人脈から点を線で結んでいき、そこから紹介等を通じて、他の点を線で結んでいくことを行った。
- ・ 既存で活動しているひとたちの過度な負担とならないよう、依頼事項を絞ってなるべく簡素で分かりやすい取組とした。

1-1. 庁内における横断的連絡体制

環境部局

事例5. 神奈川県川崎市(3) 『更なる気温上昇に備える検討ワークショップ』

- **環境局(環境総合研究所)**が中心となって『更なる気温上昇に備える検討ワークショップ』を2回開催。
講義(①改正気候変動適応法の概要、②川崎市内の熱中症発生状況)30分、ワークショップ90分の構成。
 - ・ 令和7年1月27日： **健康福祉局**の職員対象、25名参加
 - ・ 令和7年1月31日： **区職員**対象、危機管理本部や消防局含め17名参加

第1回 更なる気温上昇に備える 検討ワークショップ 令和7年1月27日(月) 14:30~16:30	シナリオ 2 気温上昇が進んだかわさき 20XX年7月 ・ 梅雨明けから20日連続で熱中症警戒アラートが発表されている。 ・ 熱中症による救急搬送者は過去最高のペースとなり、既に救急車はパンク状態。 ・ 国は連日会見を開き、不要不急の外出を控えるようアナウンスをしている。 8月10日 ・ 3日後に熱中症特別警戒アラートの発表が予想された。 ・ 本市においても市長から各局に対し、<u>熱中症特別警戒アラートの発表に備えるよう</u>指示が出された。 8月12日 午後 ・ 13日の熱中症特別警戒アラートが発表された。 ・ 本市においても、市民に対し「不要不急の外出を控え、涼しい室内で過ごす」ようアナウンスを行う。 ・ 市長からは、自宅にエアコンがない人等が<u>暑さから避難できる場所</u>を開設をするよう指示が出された。	 ▲第2回ワークショップの様子
テーマ 4~5名のグループに分かれ、3つのテーマに対し、それぞれ議論15分程度+発表を行う。		
テーマ 1 暑さから避難できる場所 (いわゆるクーリングシェルター)は、 どのような施設が適切か。 また、どのような機能が必要か。	テーマ 2 熱中症特別警戒アラートが 発表される様な状況の時、 各業務で影響が出るものは どのような事が考えられるか。	テーマ 3 熱中症特別警戒アラートの発表に備え、 今からできる取り組みはどのようなことがあるか。

■ 苦労した点

・ 年度末の繁忙期に、数多くの職員に参加してもらうべく、担当課長会議の場や個別訪問による依頼等、何度も繰り返しお願いをして、気温上昇への備えの重要性を理解してもらうよう努めた。

■ 工夫した点

・ 今回は、係長級以下を中心とした「現場」第一線の職員に声をかけた。
・ ワークショップで話し合われた意見や課題などは、今後の気候変動適応への施策に反映させるとともに、今夏の熱中症対策にも活かしていく。